

## 平成27年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年10月30日

上場取引所 東

上場会社名 インヴァスト証券株式会社  
 コード番号 8709 URL <http://www.invast.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 川路 猛  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 (氏名) 田村 信司

TEL 03-3595-0423

四半期報告書提出予定日 平成26年11月11日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成27年3月期第2四半期の連結業績(平成26年4月1日～平成26年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収益		純営業収益		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第2四半期	1,222	△50.5	1,222	△50.5	△581	—	△552	—	223	△52.3
26年3月期第2四半期	2,471	—	2,470	—	457	—	496	—	469	—

(注) 包括利益 27年3月期第2四半期 △520百万円 (—%) 26年3月期第2四半期 1,058百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第2四半期	38.51	37.88
26年3月期第2四半期	76.34	75.12

(注) 当社は平成26年3月期第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、平成26年3月期第2四半期の対前年同四半期増減率については記載しておりません。

#### (2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第2四半期	92,256	—	11,541	—	—	12.5
26年3月期	97,515	—	13,239	—	—	13.6

(参考) 自己資本 27年3月期第2四半期 11,513百万円 26年3月期 13,213百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	0.00	—	195.00	195.00
27年3月期	—	0.00	—	—	—
27年3月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

平成27年3月期の期末日における配当予想額は、現時点において未定です。

### 3. 平成27年3月期の連結業績予想(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

当社の主力サービスである外国為替証拠金取引は、外国為替市場や株式市場等の市況、その他国内外の経済環境等に大きく左右される傾向にあり、業績予想が困難であるため、業績予想の開示は行っておりません。

その代替として、営業収益等の営業指標を月次概況として開示しております。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 —社 (社名) 、 除外 —社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	27年3月期2Q	5,904,400 株	26年3月期	6,411,400 株
② 期末自己株式数	27年3月期2Q	108,600 株	26年3月期	575,800 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	27年3月期2Q	5,812,646 株	26年3月期2Q	6,152,489 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

平成27年3月期の期末日における配当予想額は現時点において未定であり、今後の業績等を勘案し見通しが立った時点で開示いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	5
2. 四半期連結財務諸表 .....	6
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	8
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	8
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	10
(継続企業の前提に関する注記) .....	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	10
(セグメント情報等) .....	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、消費税増税に伴う駆け込み需要の反動減により低調な局面が続きましたが、企業の旺盛な人員確保の動きや活発な投資活動により、今後の回復が期待されています。

国内では消費税増税後、我が国のGDPを支えてきた個人消費の低迷が続いていることに加え、輸出が伸び悩んでおり、企業の生産調整が続いています。8月に発表された2014年4月—6月の実質GDPの一次速報値はマイナス6.8%と2011年の東日本大震災以来の大幅な落ち込みとなりました。

一方では、企業の旺盛な人員確保の動きを背景に家計所得が増勢を維持していることや、企業の設備投資意欲も強いことから景気は底堅く、緩やかに改善していくことが期待されています。

国外では、アジア新興国の景気の持ち直しの遅れが目立っており、これが我が国の輸出の伸び悩みの一因となっています。しかし、円安による輸出額の増加や、堅調な米国景気が輸出を下支えしており、今後は底堅い推移が見込まれています。

このような環境のなか、外国為替市場は8月中旬以降、急速に円安が進みました。

7月から8月の中旬にかけては引き続き102円を中心とした狭いレンジ内の動きが続きましたが、8月中旬、米連邦公開市場委員会の議事録で米国の早期利上げの可能性が指摘されると、ドル買いが活発化し、ドル円も一気に水準を切り上げました。

なかでも、9月のドル円相場は、1ヶ月で5円以上の上昇となり2009年12月以来の上昇幅となりました。

株式市場は、堅調に推移しました。8月はウクライナ情勢の緊張や米国オバマ大統領によるイラク空爆の承認などにより地政学リスクが高まり、一時、下落する局面がありました。しかし、その後は大幅な円安や堅調なNYダウを背景に日経平均は上値を切り上げ、9月には終値ベースで6年10ヶ月ぶりの高値まで一時上昇しました。

このような経済状況のもとで、当社グループの当第2四半期連結累計期間の営業収益は12億22百万円(前年同四半期比49.5%)、純営業収益は12億22百万円(同49.5%)となりました。

また、当第2四半期連結累計期間において、当社が保有する投資有価証券の一部売却を行ったことにより、10億15百万円の投資有価証券売却益を特別利益として計上しております。

こうして、販売費・一般管理費は全体で18億3百万円(同89.6%)、純営業収益から販売費・一般管理費を差し引いた営業損失は5億81百万円(前年同四半期は4億57百万円の営業利益)、経常損失は5億52百万円(前年同四半期は4億96百万円の経常利益)、四半期純利益は2億23百万円(同47.7%)となりました。

なお、当社単体での営業損失は3億95百万円(前年同四半期は5億8百万円の営業利益)、経常損失は3億72百万円(前年同四半期は5億48百万円の経常利益)、四半期純利益は4億3百万円(同77.3%)となりました。

セグメントの業績概況は次のとおりであります。各セグメントにおける純営業収益は、取引所清算手数料等の取引関係費と相殺表示しております。詳細は、「注記事項(セグメント情報等)」をご参照ください。

セグメント名称		事業の内容	会社
報告 セグメント	取引所F X取引	「くりっく365」	インヴァスト証券㈱
	店頭F X取引	「FX24」、「シストレ24」、 「トライオート」	インヴァスト証券㈱
	海外金融事業	店頭F X、店頭C F D	Invast Financial Services Pty Ltd.
その他		「くりっく株365」	インヴァスト証券㈱

#### ① 取引所F X取引

取引所F X取引は、東京金融取引所におけるF X取引サービス「くりっく365」の提供を行っております。

当第2四半期連結累計期間においては、市況の変動が乏しく、売買を手控える動きがみられたこと等により、前年同四半期と比べ出来高が大幅に減少しました。

そのため、取引所F X取引による純営業収益は3億67百万円(前年同四半期比55.4%)となり、セグメント損失は43百万円(前年同四半期は2億76百万円のセグメント利益)となりました。

#### ② 店頭F X取引

店頭F X取引は、「FX24」、「シストレ24」及び「トライオート」の提供を行っております。

当第2四半期連結累計期間においては、3月よりサービスを開始している相場の方向はトレーダーが決め、後はオートパイロットが自動売買をするという新しいF Xサービス「トライオート」の出来高等が順調に推移し、総口座数はサービス開始後、約2ヶ月半で1万件を突破いたしました。

F X自動売買サービス「シストレ24」についても、7月に総口座数が7万件を突破する等、こちらも順調に推移しています。

しかしながら、取引所FX取引と同様に市況の影響を受け、前年同四半期と比べて出来高が伸び悩みました。こうして、店頭FX取引(FX24・シストレ24・トライオート)による純営業収益は6億54百万円(前年同四半期比41.4%)となり、セグメント損失は3億50百万円(前年同四半期は2億19百万円のセグメント利益)となりました。

③ 海外金融事業

海外金融事業においては、オーストラリアの子会社Invast Financial Services Pty Ltd. (以下「IFS」といいます。)が店頭FX取引及び店頭CFD取引を行っております。

昨年2月に設立したIFSの決算日は12月31日となっているため、連結決算への数値の反映は発生から3ヶ月後となります。そのため、当第2四半期連結累計期間においては、IFSの平成26年1月から6月までの実績を反映しております。

IFSは、世界的に支持する投資家が多いMT4システムとプロの投資家に人気があるcTraderを中心とした店頭FX取引を提供しているほか、店頭CFD取引として、MT4のシステムを通じたメタルや株価指数などのサービスを提供しております。

IFSは昨年7月下旬より営業を開始しておりますが、現在の顧客層は、オーストラリア以外にも、シンガポール、中国、マレーシア、イギリス等、多岐に渡ります。

預り証拠金残高は、平成26年6月末時点で1,077万豪ドル、9月末時点で982万豪ドルとなっております。

こうして、海外金融事業の純営業収益は91百万円(前年同四半期は純営業収益0百万円)となりましたが、事業基盤の拡大に必要な先行投資としての販売費・一般管理費を計上した結果、セグメント損失は1億85百万円(前年同四半期は51百万円のセグメント損失)となりました。

④ その他

その他の事業「くりっく株365」による純営業収益は11百万円(前年同四半期比33.7%)となり、セグメント損失は2百万円(前年同四半期は12百万円のセグメント利益)となりました。

主要な収益・費用等の状況は次のとおりであります。

① 受入手数料

当第2四半期連結累計期間の受入手数料の合計は2億81百万円(前年同四半期比32.5%)となりました。内訳は以下のとおりであります。

・委託手数料	12百万円(同28.6%)
・取引所為替証拠金取引に係る受取手数料	2億55百万円(同31.2%)
・投資顧問料	13百万円(同443.4%)
・その他の受入手数料	0百万円(同14.0%)

② トレーディング損益

当第2四半期連結累計期間におけるトレーディング損益は、7億44百万円(前年同四半期比46.5%)の利益となりました。これは店頭FX取引等によるものであります。

③ 金融収支

当第2四半期連結累計期間における金融収益は、10百万円(前年同四半期比196.1%)となりました。主な発生要因は預金利息によるものであります。

④ 販売費・一般管理費

当第2四半期連結累計期間における販売費・一般管理費は、18億3百万円(前年同四半期比89.6%)となりました。主な内訳は以下のとおりであります。

・取引関係費	5億83百万円(同74.1%)
・人件費	4億24百万円(同104.3%)
・不動産関係費	5億3百万円(同89.2%)
・事務費	14百万円(同88.1%)
・減価償却費	2億26百万円(同121.8%)
・租税公課	28百万円(同126.7%)
・その他	22百万円(同77.3%)

⑤ 営業外収益

当第2四半期連結累計期間においては32百万円の営業外収益を計上しており、その内訳は以下のとおりであります。

・受取配当金	17百万円
・為替差益	13百万円
・その他	0百万円

⑥ 営業外費用

当第2四半期連結累計期間においては2百万円の営業外費用を計上しており、その内訳は以下のとおりであります。

・自己株式取得費用	0百万円
・株式公開費用	1百万円
・その他	0百万円

⑦ 特別利益

当第2四半期連結累計期間においては10億35百万円の特別利益を計上しており、その主な内訳は以下のとおりであります。

・投資有価証券売却益	10億15百万円
・金融商品取引責任準備金戻入	19百万円

⑧ 特別損失

当第2四半期連結累計期間においては22百万円の特別損失を計上しており、その内訳は以下のとおりであります。

・固定資産処分損	17百万円
・投資有価証券売却損	5百万円

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における総資産は前連結会計年度末と比較して52億58百万円減少し922億56百万円となりました。

この内、流動資産は60億86百万円減少し883億32百万円となりました。

流動資産の主な減少項目は、配当金の支払いや投資有価証券の取得による現預金の減少8億17百万円のほか、預託金が22億82百万円、短期差入保証金が40億47百万円それぞれ減少しております。

これらは、受入保証金の減少による分別及び区分管理信託所要額の減少及び取引所への短期差入保証金の減少によるもののほか、カウンターパーティへの短期差入保証金の余剰分及び顧客分別金信託の信託余剰分を圧縮したことによるものであります。

また、固定資産は前連結会計年度末と比較して8億27百万円増加し39億24百万円となりました。主な増加項目はTradency社への出資等により、投資有価証券が8億50百万円増加したことによるものであります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債合計は807億15百万円となり前連結会計年度末と比較して35億60百万円減少しました。

この内、流動負債は32億53百万円減少し804億63百万円となりました。主な減少項目は受入保証金の減少28億77百万円、外為取引未払金の減少6億79百万円、法人税等の納付による未払法人税等の減少3億4百万円であります。

固定負債は主に繰延税金負債が3億35百万円減少したことにより、前連結会計年度末に比べ2億86百万円減少し2億22百万円となりました。

特別法上の準備金においては、金融商品取引責任準備金の洗い替えによる戻入を行ったことにより19百万円減少し、29百万円となりました。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産は115億41百万円となり、前連結会計年度末と比較して16億98百万円減少しました。

主な減少項目は配当金の支払い等により利益剰余金が10億52百万円減少したことに加え、投資有価証券の評価差額金の減少により、その他の包括利益累計額が7億44百万円減少したことによりあります。

この結果、自己資本比率は12.5%（前連結会計年度末は13.6%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループの主力サービスである外国為替証拠金取引は、外国為替市場や株式市場等の市況、その他国内外の経済環境等に大きく左右される傾向にあり業績予想が困難であるため、業績予想の開示は行っておりません。

その代替として、営業収益等の営業指標を月次概況として開示しております。

## 2. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金・預金	2,540	1,723
預託金	17,226	14,943
顧客分別金信託	3,005	2,005
顧客区分管理信託	13,634	12,902
その他の預託金	587	36
短期差入保証金	65,706	61,659
外為取引未収入金	8,287	7,632
繰延税金資産	183	18
その他	473	2,354
貸倒引当金	△0	△0
流動資産計	94,418	88,332
固定資産		
有形固定資産	189	212
無形固定資産	911	830
投資その他の資産	1,995	2,881
投資有価証券	1,733	2,584
繰延税金資産	-	20
その他	262	276
貸倒引当金	△0	△0
固定資産計	3,096	3,924
資産合計	97,515	92,256
<b>負債の部</b>		
流動負債		
受入保証金	75,395	72,517
外為取引未払金	7,203	6,524
未払法人税等	359	55
役員賞与引当金	42	-
賞与引当金	54	9
その他	662	1,356
流動負債計	83,717	80,463
固定負債		
繰延税金負債	335	-
その他	174	222
固定負債計	509	222
特別法上の準備金		
金融商品取引責任準備金	48	29
特別法上の準備金計	48	29
負債合計	84,275	80,715

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,965	5,965
資本剰余金	2,806	2,313
利益剰余金	4,474	3,422
自己株式	△722	△133
株主資本合計	12,523	11,567
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	702	△41
為替換算調整勘定	△12	△12
その他の包括利益累計額合計	689	△54
新株予約権	26	28
純資産合計	13,239	11,541
負債・純資産合計	97,515	92,256

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
営業収益		
受入手数料	865	281
委託手数料	42	12
取引所為替証拠金取引に係る受取手数料	817	255
投資顧問料	2	13
その他の受入手数料	2	0
トレーディング損益	1,599	744
金融収益	5	10
その他の営業収益	0	186
営業収益計	2,471	1,222
金融費用	1	-
純営業収益	2,470	1,222
販売費・一般管理費		
取引関係費	787	583
人件費	406	424
不動産関係費	565	503
事務費	16	14
減価償却費	185	226
租税公課	22	28
その他	28	22
販売費・一般管理費計	2,013	1,803
営業利益又は営業損失(△)	457	△581
営業外収益		
受取配当金	32	17
為替差益	-	13
その他	11	0
営業外収益計	43	32
営業外費用		
自己株式取得費用	1	0
株式公開費用	0	1
為替差損	1	-
その他	0	0
営業外費用計	4	2
経常利益又は経常損失(△)	496	△552
特別利益		
投資有価証券売却益	-	1,015
金融商品取引責任準備金戻入	24	19
特別利益計	24	1,035
特別損失		
固定資産処分損	-	17
投資有価証券売却損	-	5
特別損失計	-	22
税金等調整前四半期純利益	520	460
法人税、住民税及び事業税	50	39
法人税等調整額	△0	197
法人税等合計	50	236
少数株主損益調整前四半期純利益	469	223
四半期純利益	469	223

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	469	223
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	606	△744
為替換算調整勘定	△18	△0
その他の包括利益合計	588	△744
四半期包括利益	1,058	△520
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,058	△520

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

(自己株式の取得)

当社は、平成25年12月13日開催の取締役会決議及び平成26年3月7日開催の取締役会決議(取得枠の拡大決議)に基づき、自己株式31,700株の取得を行いました。

続いて、当社は、平成26年7月30日開催の取締役会決議に基づき、自己株式10,100株の取得を行いました。  
この結果、当第2四半期連結累計期間において自己株式が42百万円増加しております。

(自己株式の消却)

当社は、平成26年7月30日開催の取締役会決議に基づき、平成26年8月15日付で、自己株式507,000株の消却を実施いたしました。

この結果、当第2四半期連結累計期間において資本剰余金が491百万円、利益剰余金が138百万円、自己株式が629百万円減少しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	取引所F X 取引	店頭F X 取引	海外金融 事業	計				
純営業収益	662	1,580	0	2,243	35	2,278	192	2,470
セグメント利益 又は損失(△)	276	219	△51	444	12	457	—	457

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、差金決済取引(証券CFD・商品CFD)事業、取引所株価指数証拠金取引(くりっく株365)事業を含んでおります。
2. 純営業収益の調整額192百万円は報告セグメント事業における取引関係費(取引所清算手数料等)であり、それぞれのセグメントの純営業収益は当該調整額と相殺しております。
3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書上の営業利益と一致しておりますので、調整額を計上しておりません。したがって、セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益を表しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	取引所F X 取引	店頭F X 取引	海外金融 事業	計				
純営業収益	367	654	91	1,112	11	1,124	97	1,222
セグメント損失 (△)	△43	△350	△185	△579	△2	△581	—	△581

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、取引所株価指数証拠金取引(くりっく株365)事業を含んでおります。
2. 純営業収益の調整額97百万円は報告セグメント事業における取引関係費(取引所清算手数料等)であり、それぞれのセグメントの純営業収益は当該調整額と相殺しております。
3. セグメント損失は、四半期連結損益計算書上の営業損失と一致しておりますので、調整額を計上しておりません。したがって、セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失を表しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。

3. 報告セグメントごとの変更等に関する事項

前第3四半期連結会計期間より、海外連結子会社 Invast Financial Services Pty Ltd.を含めた社内管理体制の見直しを行った結果、報告セグメントに「海外金融事業」を追加しております。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。